

バリ取り請負本格化 事業再構築補助活用し2拠点で



本社実験室に設置した自社製超音波バリ取り洗浄機

超音波バリ取り洗浄装置を開発・製造するブルー・スター・D（相模原市中
央区横山台一）は4月から、同市内の本社などに自社製の超音波バリ取り装置
などを設置し、バリ取りの請負事業を本格化している。バリ取りのみを事業化
している企業は全国初（同社）。同15日には取引先が多いという愛知県岡崎市に
も大型の装置を置き、事業拠点を開いた。中小企業庁の事業再構築補助金に採
択され、請負用洗浄装置の増設に充てた。

ブルー・スター・R&D 相模原市

請負事業の本格化は、
バリ取り洗浄機などの導
入に踏み切れない潜在的

な顧客に向けたアプロ
チという考え。これまで
依頼があった場合試験的

な意味合いや、装置の納
品までのつなぎとして処
理のみを請け負うことは
あった。人手不足や材料
単価の高騰などを背景に
製造業の設備投資は強い
上、新型コロナウイルスの影
響で実際にバリ取りを見ても
らう機会が減っていた。

近年は環境保護意識の
向上から低燃費化のため
に、自動車の部品は重い
金属から軽い樹脂（プラ
スチック）に変わってき
ている。特に「高機能プ
ラスチックPPS（ポリ
フェニレンサルファイ
ド）を使用する企業から
の問い合わせが増えてお
り、（高温でも硬さを失

わない）素材の性質が超
音波バリ取りに最適」
と期待（柴野佳英会長）と期待
する。

新たな事業所「中部・
超音波バリ取りセンター
」を置く岡崎市周辺

は、同社が創業時に製品
を納入した豊田自動織機
（刈谷市）をはじめ、ト
ヨタ（豊田市）や同社製
車に搭載される部品製造
業など取引先が多い多
い。受注は金属部品を扱
っている企業が中心だ
が、自動車の電動化で樹
脂製品や電子・半導体部
品など顧客の裾野を広げ
ている。

相模原市内の本社実験
室と岡崎市の同センター
には、超音波バリ取り洗
浄装置を導入。本社
にはこのほか、洗浄槽を
真空にして洗浄対象物に
附着した空気をすべて除
去してから洗浄する「真
空前処理型」、炭化水素
系溶液を使う洗浄装置も
設置した。

同社が得意とする同技
術は、人の耳には聴き取
りにくい高い振動数を持
つ音波で微細な泡を発生
し、その泡が弾ける衝撃
でバリ（加工面に生じる
不要な突起など）を除去
するもの。金属、樹脂、
セラミックス、複合材な
ど多様な材料に対応でき
る。加工後に手作業で取
り除く場合もあり、人件
費が比較的安い外国に製
造拠点を移転する理由の
一つにもなっていた。

超音波バリ取り洗浄は
「地域製造業にとって人
件費の削減や品質の安定
になり、国際競争力の強
化にもつながる」と勧め
ている。「売り上げ2倍
達成が今季の目標」と強
気に構える柴野会長は
「バリ取り請負事業は軌
道に乗るまでは時間がか
かるだろうが、装置の信
頼性を高めて販売の促進
になり、安定収入が見込
める事業になるはず」と
期待感を示した。